

2023（令和5）年度
大阪府内地域連携プラットフォーム
事業報告書
（2023年4月～9月）

2023（令和5）年9月

課題1 大学と高校の有機的な接続・連携の強化

月	会議	行事等
4		HP オープンキャンパス情報の常時掲載
5		大阪の大学「学び」WEB フェアの常時掲載
6	第1回推進委（6日）	共通大学案内ブックレットの作成・配布（7万6千部）
7	第1回部会（24日）	大阪府内の高等学校と大学の連携強化に向けたニーズ調査の実施（8月25日まで）
9		高校生応援プロジェクトの開催（HPにて公開）
10		第1回高大連携フォーラム（30日）

取組1 高大連携フォーラム https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/koudai_forum

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高大双方が高大接続の大きな環境変化に関する情報を共有している。 ・ 高大接続の諸問題を高校と大学が対等な立場で継続的に検討している。
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活用割合：会員大学数の60%以上の参加大学数／各年 ・ 参加者比率：大学と高校からの参加者数が同程度／計画期間内
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催回数：1回以上／各年
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回開催（第1回：10月30日予定、第2回 未定）

- ・ 大阪府内の高校、大学における喫緊の課題をテーマに取り上げ、情報共有や効果的な連携方法について模索する場として「高大連携フォーラム」を開催している。
- ・ 今年度は「生成AI時代の教育を考える」をテーマに、オンラインにて2回にわたりシリーズ開催する。

《第1回予定》

テーマ：生成AI時代の教育を考える 開催日時：2023年10月30日（月）18:00～19:30 講演：生成AIの登場はこれからの教育をどう変える？～英語教育での活用を例に考える～ 講演者：金丸 敏幸氏（京都大学 国際高等教育院 准教授）
--

取組2 会員大学情報の発信

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生のニーズが高い情報を厳選して会員大学から収集している。 ・ 高校生に届きやすい方法で会員大学情報を発信している。
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活用割合：会員大学数の80%以上の大学数／各年 ・ ホームページの該当ページの閲覧数：倍増／計画期間内
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施回数：1～2回／各年
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4回実施（共通大学案内ブックレット、オープンキャンパス情報、学びWEBフェア、高校生応援プロジェクト） ・ 会員大学によるHPの活用割合：100%（40/40校） ・ 高校生カテゴリページ閲覧数：3,611回（2023年4月1日～8月31日までの集計）

【オープンキャンパス情報の発信】 https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ
 会員大学のオープンキャンパス情報を大学コンソーシアム大阪のホームページに一元化し、高校生が大阪の大学のオープンキャンパス情報にアクセスしやすい工夫を行った。

【共通大学案内ブックレットの作成・配布】

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/images/web/osaka/webfair/booklet2023.pdf?1688111722>

会員大学の魅力を広く発信するために「共通大学案内ブックレット」を作成し、学生による自大学の魅力を紹介や学生座談会記、また大学コンソーシアム大阪の会員大学の学生から成る「学生ボランティアチーム ACT」による記事の掲載など、内容の充実に努めた。

ブックレットは、大阪府教育庁等の協力や会員大学の共同による高校訪問時の配布を通じて、これから本格的に進学先を検討する高校2年生を中心に約7万6千部配布した。

【大阪の大学「学び」WEB フェア】 https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ/webfair

会員大学の魅力発信の取組の一環として、大学コンソーシアム大阪のホームページで会員大学の合同説明会を実施した。

課題2 単位互換プログラムのさらなる充実

月	会議	行事等
4		前期開講（センター2科目）
5	第1回推進委・単互実務委合同会議（26日）	
6		単位互換制度に関する意向調査実施
7	第1回部会（6日）	
8		追加募集科目 出願開始（24日～） 集中科目開講（センター2科目）
9		後期開講（センター9科目）

取組1 単位互換事業 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/tg>

目標	<ul style="list-style-type: none"> センター科目と各大学が担当するオンキャンパス科目の役割やねらいが明確になっている。 各大学の強み、ネットワークを活かして「大阪の特徴・魅力」を総合的に学べる機会を提供している。
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> 学生送り出し校数：包括協定校の60%以上の大学数／各年
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数：1回／各年
実績	<ul style="list-style-type: none"> 1回実施 学生送り出し校数：包括協定校の69.2%（最大27/39校）

今年度の全体の出願数はコロナ前の水準まで回復し、順調に推移した。なお、詳細は以下のとおり。

【センター科目】

- 科目数は、新規提供科目を含め、計15科目（昨年度12科目より）と微増した。
- また、昨年度に引き続き、南大阪地域大学コンソーシアムとの広域単位互換を実施し、双方から1科目ずつ提供している。
- 出願者数は前年より増加し、690人、前年比123.4%となった。

【オンキャンパス科目】

- 科目数は計416科目（昨年度367科目より）と増加した。
- 出願者数は前年より微減して274人、前年比91.6%となった。

《実績》

- 出願者数は受講許可者数を示す。
- 2023年度は協定校として大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学はそれぞれ1校として計上。

		2022	2023（速報）	当年-前年	前年比
センター	科目数	12	15	+3	125.0%
	出願校数	18	24	+6	133.3%
	出願者数	559 ※うち南大阪4人	690	+131	123.4%
オン キャンパス	科目数	367	416	+49	113.3%
	出願校数	18	24	+6	133.3%
	出願者数	299	274	-25	91.6%

【単位互換制度に関する意向調査の実施】

- 単位互換制度のさらなる充実を目指し、包括協定校の個別ニーズやシーズを把握・共有し、次年度以降の科目提供に係る検討材料として活用することを目的に、単位互換制度に関する意向調査を6月に実施した。調査結果は9月中に公開予定である。

課題3 キャリア教育プログラムの充実と支援体制の強化

月	会議	行事等
5	第1回インターンシップ推進委・ キャリア支援推進委合同会議（17日）	・就業体験型 学生向け説明会（10日） ・就業体験型 学生出願期間（10日～26日）
6		・就業体験型 面接・選考（4日）
7		・就業体験型 事前研修（2日） ・第1回大学等教職員向けセミナー（10日）
8	第1回部会（4日） 第2回インターンシップ推進委・ キャリア支援推進委合同会議（29日）	・就業体験型 実習期間 （～9月中旬まで）
9		・プロジェクト型（舞洲）実習期間 （18日～2024年2月18日） ・第2回大学等教職員向けセミナー（14日）
10		・就業体験型 事後研修・交流会（1日）

取組1 就業体験型プログラム <https://www.consortium-osaka.gr.jp/career>

目標	・参加した学生が社会人としての心構えや「働くこと」についての理解を深め、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。 ・留学生、障がい学生、社会人学生など多様な学生と社会をつなぐ機会となっている。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の60%以上の参加大学数／各年 ・参加学生数：150人以上／各年 ・受入企業数：100社以上／各年
活動指標	・実施回数：1回／各年
実績	・1回実施

《就業体験型プログラム実績》 ※8月31日時点

	出願者数	マッチング数	実習者数		エントリー数	マッチング数	送出数
大学数	20校	19校	19校	受入 企業数	117社	71社	68社
人数	167人	146人	140人				

- ・前年度の実習者数131人（出願者数は162人）に対し、今年度は実習者数140人（出願者数は167人）と微増した。
- ・受入先は117社（推薦枠を含む、前年度は93社）がエントリーし、うち68社に送り出し、ほぼコロナ前の水準に回復している。

取組2 プロジェクト型プログラム <https://www.consortium-osaka.gr.jp/career/project>

目標	・参加した学生が現場での経験により、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。 ・学生による提案内容が連携先企業をはじめ、社会的に評価・関心を高めている。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年 ・参加学生数：30人以上／各年
活動指標	・プログラム本数：2件以上／各年
実績	・1件実施 ・舞洲スポーツイノベーションプロジェクト（2023年9月～2024年2月）

《舞洲スポーツイノベーションプロジェクト》

日 時	2023年9月18日（月・祝）～2024年2月18日（日）
会 場	武庫川女子大学メディアホール・おおきにアリーナ舞洲他（オンライン併用）
共 催	舞洲プロジェクト（大阪市、大阪エヴェッサ、オリックス・バファローズ、セレッソ大阪）
メンター	松尾 信之介氏（大阪学院大学 経済学部 准教授）
参加者数	6大学9人（9月18日現在）

- ・本プログラムは、大阪市を本拠地とするプロバスケットボールチーム「大阪エヴェッサ」の事業課題に対し、ビジネスプランを提案する「第3回舞洲スポーツビジネスコンテスト」に挑戦する内容となっている。なお、プロジェクトの推進にあたり、今年度はメンターとして大阪学院大学 松尾准教授に協力を仰ぐ。

取組3 就活クエスト in OSAKA（旧 オンラインプログラム）

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/career/quest>

目 標	・ 参集型では難しかった遠隔地や特殊な現場など、これまで知る機会がなかった仕事について、学生が具体的なイメージを持つことができている。 ・ 学生が、プログラムを通じて企業活動の意義とそこで働く人の役割の一端を理解している。
数値目標	・ 学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年 ・ 参加学生数：60人以上／各年
活動指標	・ 実施回数：3回以上／各年
実績	・ 11月以降、3回程度実施予定

- ・本プログラムは、低年次学生を主な対象に、早期から実社会に触れることによる学修の深化や主体的な職業選択、また高い職業意識の涵養を目的としている。
- ・今年度は「自己理解」、「業界・企業・職種研究」、「起業」をテーマとし、各1～2日間のワークショップ形式にて実施予定である。関係企業等を講師に迎えるほか、大阪商工会議所とも連携し、学生が大阪の産業構造を知り、府内の中小企業の魅力に触れる機会を提供する。

取組4 キャリア支援事業

目 標	・ 時宜に応じたキャリア支援の課題に会員大学が連携して対応している。（就職に困難性のある学生に対する支援、学生の多様性に対する支援など） ・ 就職支援のための関連団体との連携が拡大し、充実した支援を実施している。
数値目標	・ 参加大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年
活動指標	・ 開催回数：1回以上／各年
実績	・ 「大学等教職員向けセミナー」 3回開催（第1回：7月 第2回：9月 第3回12月予定）

【大学等教職員向けセミナーの開催】

- ・大阪府、南大阪地域大学コンソーシアムとの共催で、大学等教職員を対象に発達障がい傾向を有するなど、就職困難性の高い学生の支援方法について理解を深めることを目的に実施している。なお、今年度は以下のテーマで実施予定である。

《大学等教職員向けセミナー実績および実施予定》

回・開催日	テーマ・会場・講師等・参加者数
第1回 (7月10日)	テ ー マ：「要支援学生の就職について考える」 会 場：オンライン（ZOOM） 講 師：浜内 彩乃氏（京都光華女子大学 健康科学部 講師／大阪・京都 こころの発達研究所 葉 代表） 参加者数：67人（うち会員16大学26人）

<p>第2回 (9月14日)</p>	<p>テ ー マ : 「要支援学生の就職支援」 ～『高等教育機関』と『支援機関』の連携について～ 会 場 : キャンパスポート大阪 講 師 : 日下部 貴史氏 (国立大学法人富山大学 学生支援センター) 塚田 吉登氏 (社会福祉法人すいせい 理事) 参加者数 : 40人 (うち会員 17人 大学 20人)</p>
<p>第3回 (12月予定)</p>	<p>テ ー マ : 地域リソース (支援機関) (予定) 会 場 : オンライン (ZOOM) 講 師 : 調整中</p>

課題4 国際交流の活性化

月	会議	行事
5	第1回推進委（15日）	
6		学生英語プレゼンテーションコンテスト発表者募集開始（16日～）
7	第1回部会（20日）	
8		第1回グローバル人材育成講座（29日）
9		学生英語プレゼンテーションコンテスト運営メンバー募集開始

取組1 他国・他地域との交流事業

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な目的をもって、国際交流事業を実施している。 ・さまざまな交流プログラムを検討・実施している。
数値目標	・交流事業数：延べ5事業／計画期間
活動指標	・交流事業開催回数：1回以上／各年（再開以降）
実績	・交流再開に向けて、台湾財団法人高等教育国際合作基金会上に確認中。

取組2 グローバル人材育成講座 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/global>

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の現状と課題を認識し、グローバルな社会課題の解決策を考えるきっかけとなっている。 ・多文化共生・異文化理解、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）という価値観を育む機会となっている。
数値目標	・講座受講者数：延べ300人以上／計画期間内
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・講座開催回数：2回以上／各年 ・国際交流イベント開催回数：1回以上／各年
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・講座：2回開催（第1回：8月29日、第2回：未定） ・国際交流イベント：1回開催（2024年3月予定、大阪のまちあるきツアー）

【講座】

《第1回開催概要》

テーマ：大阪から目指せ、グローバルキャリア！
 ～国際協力業界で活躍するアクターからリアルを学ぼう～
 日時：2023年8月29日（火）10:00～16:00
 講師：鍛冶澤 千重子氏（独立行政法人国際協力機構 開発大学院連携課 課長）
 河野 敬子氏（一般社団法人 海外コンサルタント協会）
 栗田 佳典氏（特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会 事務局長・理事）
 大森 功一氏（世界銀行 東京事務所 上級対外関係担当官）
 受講者数：15大学27人 ※うち留学生2人

取組3 学生英語プレゼンテーションコンテスト https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/en_presentation

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が発表に至るまでにグループワークを重ね、プレゼンテーションスキルを学ぶ機会となっている。 ・国際共通語としての「英語」を用いて、国際的な共通課題の解決策を斬新な発想で考え、意見交換する機会となっている。
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・出場チーム数：15チーム以上／各年 ・参加者数：英語圏以外の留学生の参加増／計画期間内
活動指標	・開催回数：1回／各年
実績	・1回開催（12月3日予定）

《開催概要》

開催日時：2023年12月3日（日）10:00～17:00
 会場：グランフロント大阪 北館タワーC8階
 ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC RoomC01+C02
 発表テーマ：「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げた2025年大阪・関西万博の開催まで2年を切りました。本コンテストでは、大阪の学生が、未来社会をデザインする主役として、SDGs達成に繋がる具体的な提案を発表してください。

- ・高い国際意識やコミュニケーションスキルをもつ若者の育成に寄与することを目的に開催している。
- ・観覧機会を広く提供するため、当日の様子をYouTubeによるライブ配信を行い、オンライン視聴を可能にする。
- ・「万博」をテーマに取り上げることから、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会より審査員協力を得る予定である。

発表者募集チラシ



課題5 地域連携の促進による大阪・関西の活性化

月	会議	行事等
4		
5		地域連携学生フォーラム 学生運営メンバー活動開始(29日)
6	第1回推進委員会(14日)	地域連携学生フォーラム 発表者募集開始(26日)
7		
8	第1回部会(3日)	地域連携学生フォーラム 発表者募集締切(25日)
9		地域連携学生フォーラム 観覧者募集開始(8日)
10		地域連携学生フォーラム(22日)

取組1 地域連携 学生フォーラム in Osaka https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/gakusei_forum

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に起こっている。 ・学生の提案事項や連携のノウハウが蓄積され、それらを会員大学や自治体が共有している。 ・大阪・関西万博に向けて、学生がつながり、関わる場となっている。
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発表大学数：会員大学数の50%以上の参加大学数／計画期間内 ・参加する行政・事業所数：15団体以上／計画期間内
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数：1回／各年
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・1回開催(10月22日予定)

【地域連携 学生フォーラム in Osaka】

- ・会員大学の学生自らが取り組む地域活動(ゼミ活動やボランティア等)について発表し、交流を深めることを目的としたフォーラムを毎年開催している。
- ・今年度は13大学9事業の発表を予定し、現地会場のほか、当日の様子をYouTubeでライブ配信し、広く参加者を得ながら開催する予定である。
- ・フォーラムの開催に向けて、有志の学生運営メンバーが約5か月にわたって企画や準備を進めていく。

<開催概要>

開催日時：2023年10月22日(日) 10:00~17:00
 会場：グランフロント大阪 北館タワーC8階
 ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC RoomC01+C02
 テーマ：大阪の3つの輪・和・話 ~学生パワーで明るく笑顔つながる大阪に~

<発表事業数>

大学数	事業数
13	9

<学生運営メンバー>

大学数	人数
7	13

取組2 地域連携交流サロン https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/info_meeting

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に生まれている。
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・参加大学数：会員大学数の50%以上の参加大学数／計画期間内 ・参加する行政・事業所数：10団体以上／計画期間内
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数：1回以上／各年
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・1回開催(年内に開催予定)

- ・本サロンは、地域連携をテーマに情報収集やネットワーク構築の場として昨年度より開催している。今年度は、「学生が創る『2025大阪・関西万博』を考えるー学生ボランティアの視点からー」をテーマに、万博協会と大学関係者での意見交換会を開催予定である。

課題6 研修による大学教職員の資質向上とネットワーク強化

月	会議	行事
4		
5	第1回推進委（15日）	
6		
7		初任者SD研修（第1回）（31日）
8	第1回部会（2日） 第2回推進委（29日）	
9		

取組1 各種研修

目標	・会員大学のニーズに応じた研修を実施している。 ・研修講師を担える人材の育成が図られている。
数値目標	・教職員送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年
活動指標	・実施回数：2回以上／各年
実績	・初任者SD研修：1回実施（10～12月に第2回、第3回を実施予定） ・インストラクショナルデザイン（ID）研修：オンデマンドにて提供中

【初任者SD研修】 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/sd>

- ・大学職員としての業務遂行能力を高めるための必要なスキルを考えるとともに、様々な大学の職員との交流を通じて情報交換やネットワーク構築の機会提供を目的に、講義とグループワークから成る研修を全3回実施する。

《実績および実施予定》

回・開催日	テーマ	講師 (いずれも推進委員)	受講者数
第1回 (7月31日)	大学職員が知っておくべき キホンを学び、業務上の 課題を共有する	佐藤 浩輔氏 (大阪体育大学 庶務部 学長室担当) 滝口 雄貴氏 (大阪医科薬科大学 人事部 人事管理課 主任)	19 大学 42 人 (うち会員外 1 大学 2 人)
第2回 (10～11月予定)	自分の大学を知ろう！	佐藤 浩輔氏 (大阪体育大学 庶務部 学長室担当)	
第3回 (11～12月予定)	新任者の悩みや心構え (仮題)	宮原 秀明氏 (大阪学院大学 大学事務長) 葛西 崇文氏 (大阪女学院大学 教務・学生課 課長) ほか	

【インストラクショナルデザイン（ID）研修】

- ・大学職員を対象に、教え方のセオリーを学び、ノウハウの自大学のSD研修の企画や業務での活用を目的に、2022年11月2日よりオンデマンド形式にて公開している。
- ・講師を研修部会推進副委員長の宮原 秀明氏（大阪学院大学 大学事務長）が務め、人事担当者のほか、教えることを企画し実施する業務担当者も活用可能な内容としている。

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/sd/id/>（研修概要）

<https://donow2016.com/id/2022/>（研修詳細）

取組 2 Salon De 大学コンソーシアム大阪 (SD 勉強会)

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/salon>

目標	・参加者が主体的に情報交換や交流を行っている。
数値目標	・会員大学の参加率：会員大学数の 60%以上の参加大学数／各年
活動指標	・開催回数：3 回以上／各年
実績	・11 月～2024 年 3 月に全 3 回開催予定

・「生成 AI」や「教務の実践知の蓄積を促すケースメソッド」をテーマに、今年度下半期に開催予定として、現在調整中である。

《開催スケジュール（予定）》

回・開催日	テーマ・講師（予定）
第 1 回 (11～12 月予定)	生成 AI ハンズオンセミナー 吉金 明氏（ユージングテクノロジーベタージャパン合同会社）
第 2 回 (2024 年 1～2 月予定)	生成 AI の仕組み（トークセッション） 前田 利之氏（阪南大学 副学長、AI・データサイエンス教育研究所長）
第 3 回 (2024 年 2～3 月予定)	現場で職員育成するためにー教務の実践知の蓄積を促すケースメソッド 竹中 喜一氏（近畿大学 IR・教育支援センター 准教授）

課題 7 大阪の様々な課題に対応した取り組みの拡充

月	会議	行事
4	第 1 回分科会 1 (28 日)	
5	第 2 回分科会 1 (26 日)	リカレント教育推進に係る意見交換会（第 1 回）(20 日) 提案型研究事業選定 (30 日)
6	第 1 回協議会 (22 日) 第 3 回分科会 1 (30 日)	公開講座 第 1 回 (19 日)
7	第 4 回分科会 1 (28 日)	
8	第 5 回分科会 1 (25 日)	MOS 資格取得講座開講（～9 月末） FD 研修 (24 日) 公開講座 第 2 回 (25 日)
9	第 6 回分科会 1 (15 日)	公開講座 第 3 回 (7 日)、第 4 回 (20 日)、第 5 回 (27 日)、 追加開催 (12 日)
10	第 7 回分科会 1 (13 日)	タイプ 3 申請 (31 日までに)

取組 1 学生ボランティアの拡充

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/volunteer>

目標	・事業の企画運営に学生が主体的に関わる機会が創出されている。
数値目標	・学生の参加数：各部会事業への企画・運営に関わった学生数延べ 200 人／計画期間内
活動指標	・既存事業やその他事業へ学生ボランティア参画：2 事業以上／各年
実績	・5 事業（地域連携学生フォーラム、学生英語プレゼンコンテスト、国際交流イベント（大阪のまちあるきツアー）、ACT 2 事業（活動紹介&交流会、学生座談会）実施予定

- ・地域連携や国際交流のイベント運営への参画のほか、2021 年度より新たに「学生ボランティアチーム ACT」を発足し、様々な大学の学生が集いながら自由な発想による交流イベントを行っている。
- ・今年度は、全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの分科会で発表を行うなど、活動の幅を徐々に広げている。なお、現在 8 大学 13 名の学生が活動中である。
- ・6 月には大阪府内地域連携プラットフォーム事業の一環として、高校生に向けた共通大学案内ブックレット「大阪の大学へ行こう！」の記事を作成し、大阪府内の高校に 7 万 6 千部配布した。また、7 月には ACT の新規メンバーの募集を兼ねて、ACT やボランティアに興味のある学生を対象に、活動紹介と座談会形式の交流会を企画・開催した。

取組2 連携調査・研究の実施

目標	・大学間、また産官学の連携による調査や研究が恒常的に実施されている。
数値目標	・連携調査・研究実施数 延べ15件／計画期間内
活動指標	・連携調査・研究テーマ数 2テーマ以上／各年
実績	・調査：3テーマ（調査：薬物、大阪府内の高等学校と大学の連携強化に向けたニーズ調査、単位互換） ・研究：1テーマ 中期計画推進に係る提案型研究事業（2件採択）

- ・新入生対象薬物意識調査は、今回3回目の実施となり、調査結果を薬物乱用防止の啓発に繋げるために、調査内容に性別を回答する項目を設けるなど、より詳細な実態の把握に努めた。今後、産官学連携による薬物乱用防止の啓発活動を継続して進めるほか、自県進学率の高い大阪において高校との連携の必要性も挙げられており、調査結果の共有等行う予定としている。
- ・今年度の大学コンソーシアム大阪の中期計画推進に係る提案型研究事業には、4件の応募中、2件が採択され、現在推進中である。
 - ＜採択事業＞ ※★は研究代表大学
 - ・管理職者が持つ研修ニーズー大学設置形態からの比較ー（大阪女学院大学★・大阪学院大学・大阪電気通信大学）
 - ・司書課程における選択科目の開放による学生の知識と意欲の向上（相愛大学★、大阪学院大学、梅花女子大学、桃山学院大学）

取組3 地域課題に対応した取り組みの推進

目標	・産官学連携による課題解決体制が整備されている。
数値目標	・実施事業数 延べ5事業／計画期間内
活動指標	・実施事業数 1事業以上／各年
実績	・4事業実施 （大阪府内地域連携プラットフォーム主催FD研修、公開講座、リカレントプログラム、活動報告会）

【大阪府内地域連携プラットフォームの取組】 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/platform>

- ・今年度の上半期には、FD研修、公開講座、リカレントプログラムを実施した。詳細は以下のとおり。

＜FD研修＞

開催日時	2023年8月24日（木）14:00～15:30
会場	阪南大学 あべのハルカスキャンパス
テーマ	AIがもたらす大学教育への影響とはーChatGPTの事例から考えるー
講師	前田 利之氏（阪南大学 副学長、AI・データサイエンス教育研究所長）

＜公開講座＞

回	開催日程	テーマ	講師
1	6月19日（月） 16:30～18:00	迫りくる大災害から命を守る ー南海トラフ巨大地震への備えと実践ー	奥村 与志弘氏 （関西大学 社会安全学部 教授） ＜情報提供＞大阪市危機管理室
2	8月25日（金） 13:30～14:30	国際平和と安全 ー軍縮・不拡散の視点からー	樋川 和子氏 （大阪女学院大学 国際・英語学部 教授）
3	9月7日（木） 16:00～17:00	咲洲から大阪・関西万博へ ー産官学連携によるプレ万博の取組ー	前川 佳敬氏 （森ノ宮医療大学 副学長／ 地域連携センター長）
4	9月20日（水） 16:00～17:00	アフターコロナ時代の 高齢者のフレイル予防ー大学の取組紹介ー	井尻 吉信氏 （大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部 教授）
5	9月27日（水） 16:00～17:00	「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と 包摂性のある社会の実現とは ージェンダーギャップの解消の視点からー	三成 美保氏 （追手門学院大学 法学部 教授）
追加分	9月12日（火） 15:00～16:00	進化するスポーツ産業と スポーツビジネスの拡大	原田 宗彦氏 （大阪体育大学 学長）

＜リカレントプログラム＞

開催期間：2023年8月1日～9月30日 講座名：MOS 資格取得講座（オンデマンド講座） 対象：現職の社会人 受講者数：4人
--

＜大阪府内地域連携プラットフォーム 活動報告会＞

- ・大学コンソーシアム大阪及び大阪府・市・大阪商工会議所との連携による取組を広く発信しながら、参加者による意見交換を目的とした活動報告会を2024年3月に開催予定とし、現在準備を進めている。

【分科会1の設置と私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・プラットフォーム型）の申請】

- ・2023年5月に開催した大学コンソーシアム大阪第17回通常総会において、今年度も私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・プラットフォーム型）に申請することが全会一致で承認された。これを受けて大阪府内地域連携プラットフォーム協議会のもとにタイプ3申請に関する検討等を行う「分科会1」を設置し、加点に向けた取組を進め、6年連続選定を目指し取組を進めている。（取組内容は前項目のとおり）

取組4 大阪・関西万博との連携

目標	・万博への積極的な参画を通じて大阪・関西の活性化に寄与している。
数値目標	・実施事業数 延べ10事業／計画期間内
活動指標	・実施事業数 2事業以上／各年
実績	2事業実施 ・学生英語プレゼンテーションコンテスト（万博をテーマに）：2023年12月開催 ・グローバル人材育成講座（第1回：グローバルキャリア・第2回：SDGsをテーマとして予定） その他、大学コンソーシアム大阪と公益社団法人2025年日本国際博覧会協会との協定締結

- ・大阪・関西万博開催まであと2年となる中、大学コンソーシアム大阪と公益社団法人2025年日本国際博覧会協会と大阪・関西万博に向けた取組等の連携推進に関する協定を締結した。本協定の締結を機に、会員大学間や大阪府内地域連携プラットフォームの枠組みからさらにネットワークを広げた具体的な連携事業の創出に繋げている。